

ダイズのジャガイモヒゲナガアブラムシの被害と薬剤による防除

古川農業試験場

1 取り上げた理由

ジャガイモヒゲナガアブラムシは、後期多発型の発生により吸汁害および早期落葉を引き起こし、収量、品質に影響を及ぼすダイズの重要害虫である。そこで、後期のピーク時の密度と被害の関係および効果の高い殺虫剤を明らかにしたので、参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 後期の密度ピーク時の発生密度が高いほど、小葉の被害面積率および落葉率は比例して増加し、子実重、100粒重、完全粒歩合は比例して減少する(図1)。
- 2) アセフェート水和剤、クロチアニジン水溶剤、ペルメトリン乳剤、フルシトリネート液剤が本種に対して、速効性があり防除効果は高い(図2)。

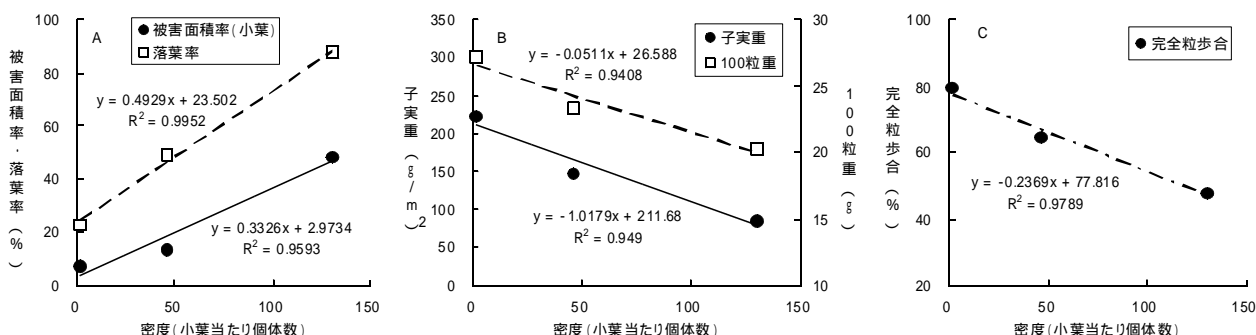


図1 後期のピーク時の密度と被害の関係

A: 密度と小葉の被害面積率、落葉率の関係

B: 密度と子実重、100粒重の関係

C: 密度と完全粒歩合の関係

注) 調査月日: 密度・小葉の被害面積率9月10日、落葉率9月16日。

3 利活用の留意点

- 1) 本種の密度と子実重の関係から、減収の目安について求めると、減収率10%、20%とした場合、ピーク時の小葉当たりの平均個体数は、それぞれ12個体、34個体である。
- 2) 後期多発型発生の恐れがある場合、被害をできる限り抑えるため、後期の密度がピークに達する前の早い時期に殺虫剤散布を行う。ただし、速効性がある殺虫剤を散布すれば、ピークに達する3日前でもその効果は認められる(図3)。
- 3) 後期多発型発生の後期の密度ピークは、8月下旬~9月上旬にある(図4)。

(問い合わせ先: 古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

ダイズにおけるジャガイモヒゲナガアブラムシの発生予察法の確立 平成15～17年

2) 参考データ

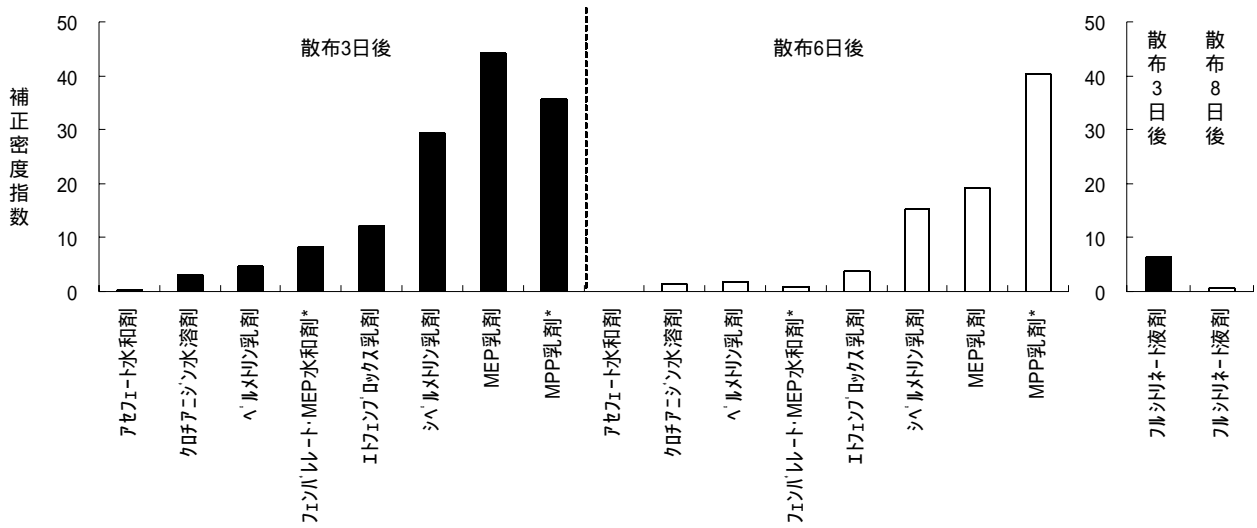


図2 ジャガイモヒゲナガアブラムシに対する殺虫剤の効果(茎葉散布剤)

注1) 補正密度指数とは、散布前の密度の違いを考慮し、各調査時点の無処理区の密度を100とした場合の各区の発生割合を示すものである。

補正密度指数 = (処理区の 日後密度 / 処理区の 散布前密度) × (無処理区の 散布前密度 / 無処理区の 日後密度) × 100

注2) *: ダイズのアブラムシ類では登録がないが、ダイズの他の害虫で登録がある。

注3) フルシトリン液剤は、平成17年新農業実用化試験の結果より抜粋した。

注4) 殺虫剤散布日: 9/9(左図)、8/30(右図)。

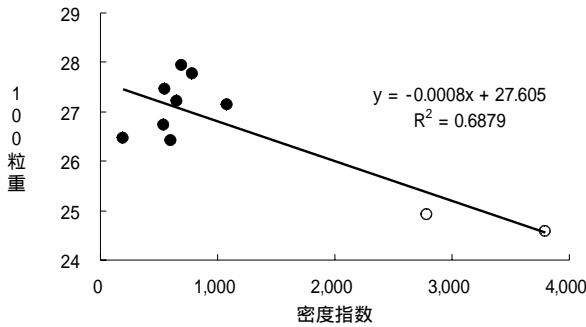


図3 ジャガイモヒゲナガアブラムシの殺虫剤散布と100粒重の関係

平成17年新農業実用化試験成績より。

密度指数: 日・密度の関係より算出した。

密度調査: 散布前日(8/29)、散布3日後(9/2)、散布8日後(9/7)。

○: 殺虫剤散布、●: 殺虫剤無散布。

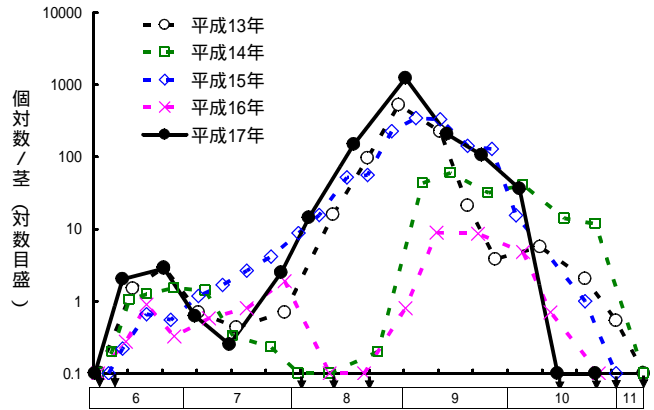


図4 ダイズのジャガイモヒゲナガアブラムシの発生消長(古川農試)

個体数/茎が0.1以下の場合には 示した。殺虫剤・殺菌剤は無散布。

3) 発表論文等

北日本病虫研報 56 : 131-133 (2005)